

改訂：2026 年 8 月 12 日

# クラウドインスタンスでの Cisco ISE へのアップグレードとログイン

## Cisco ISE ハイブリッド展開のアップグレード

Cisco ISE アップグレードワークフローは、AWS、Microsoft Azure、または OCI 上の Cisco ISE では使用できません。Cisco ISE の新規インストールのみがサポートされています。ただし、設定データのバックアップと復元は実行できます。プライマリ管理ノード（PAN）がクラウドかオンプレミスのいずれかにインストールされている Cisco ISE ハイブリッド展開をアップグレードできます。

- [オンプレミスにインストールされた PAN を使用したハイブリッド展開のアップグレード（1 ページ）](#)。
- [クラウドにインストールされた PAN を使用したハイブリッド展開のアップグレード（2 ページ）](#)。

## オンプレミスにインストールされたPANを使用したハイブリッド展開のアップグレード

PAN がオンプレミスにインストールされ、セカンダリノードのいずれかまたは一部がクラウドにインストールされているハイブリッド展開をアップグレードするには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** Cisco ISE 展開から、クラウドにインストールされているセカンダリノードの登録を解除します。

すべてのセカンダリノードがクラウドにインストールされている場合、ダウンタイムが発生する可能性があります。

**ステップ 2** オンプレミス展開をより上位のリリースにアップグレードします。

詳細については、ご使用のリリースの『[Cisco Identity Services Engine Upgrade Journey](#)』にある「Perform the Upgrade」セクションを参照してください。

**ステップ 3** 必要な数のスタンドアロン Cisco ISE ノードを、上位のリリースでクラウドにインストールします。

NAD の設定変更を回避するために、同じ IP アドレスを使用してノードをインストールして設定する必要があります。インストールプロセスの詳細については、ご使用のリリースの『[Cisco Identity Services Engine Installation Guide](#)』を参照してください。

**ステップ 4** これらのスタンドアロンノードを、アップグレードしたオンプレミス展開に登録します。

Cisco ISE に新しく展開されたノードにシステム証明書をインポートする必要があります。システム証明書を Cisco ISE ノードにインポートする方法の詳細については、ご使用のリリースの『[Cisco Identity Services Engine Administrator Guide](#)』にある「Basic Setup」の章の「Import a System Certificate」セクションを参照してください。

PAN がオンプレミスにインストールされているハイブリッド Cisco ISE 展開のアップグレードが完了しました。

## クラウドにインストールされた PAN を使用したハイブリッド展開のアップグレード

PAN がクラウドにインストールされているハイブリッド展開をアップグレードするには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** 既存の展開から Cisco ISE の構成設定と運用ログをバックアップします。

**ステップ 2** 展開内のすべてのノードをシャットダウンします。

**ステップ 3** 必要な数のスタンドアロン Cisco ISE ノードを、クラウドとオンプレミスに上位のリリースでインストールします。

NAD の設定変更を回避するために、同じ IP アドレスを使用してノードをインストールして設定する必要があります。インストールプロセスの詳細については、ご使用のリリースの『[Cisco Identity Services Engine Installation Guide](#)』を参照してください。

**ステップ 4** バックアップデータから Cisco ISE の設定を復元します。詳細については、ご使用のリリースの『[Cisco Identity Services Engine Upgrade Journey](#)』にある「Backup and Restore Upgrade Process」セクションを参照してください。

**ステップ 5** アップグレードしたクラウド展開にすべてのノードを登録します。

PAN がクラウドにインストールされているハイブリッド Cisco ISE 展開のアップグレードが完了しました。

## クラウドプラットフォームを介して起動された Cisco ISE インスタンスのログイン情報

クラウドネイティブイメージを使用して起動された、またはサポートされているクラウドプラットフォームでホストされている Cisco ISE インスタンスのユーザー名とパスワードは、安全である必要があります。

### クラウド上で動作する Cisco ISE のユーザー名

クラウドプラットフォームを介して起動される Cisco ISE インスタンスのデフォルトのユーザー名は `iseadmin` です。ユーザーデータに別のユーザー名を入力した場合でも、Cisco ISE インスタンスはユーザー名 `iseadmin` で作成されます。

#### メモ

---

AWS を介して起動される Cisco ISE リリース 3.1 インスタンスの場合、デフォルトのユーザー名は `admin` です。

---

### クラウド上で動作する Cisco ISE のパスワード

すべてのクラウドプラットフォームで、インスタンスのセットアップ時に設定するパスワードはプレーンテキストとして保存されます。ただし、プレーンテキストのパスワードはセキュリティリスクをもたらす可能性があります。そのため、クラウドプラットフォームから起動される Cisco ISE インスタンスでは、Cisco ISE GUI に最初にアクセスするときにログインパスワードをリセットする必要があります。次に、エラーを回避するために、更新されたパスワードで API ベースの自動化スクリプトも更新する必要があります。

クラウドネイティブイメージを使用して起動された、またはサポートされているクラウドプラットフォームでホストされている Cisco ISE インスタンスのユーザー名とパスワードは、安全である必要があります。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。